学校番号	104

令和８年度　芸術科（美術）

教科	芸術	科目	美術研究	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高校生の美術１」「高校生の美術２」（日本文教出版）						
副教材等	教師作成のテキスト						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

美術研究では美術Ⅰ、美術Ⅱでの活動体験を基礎に、自身で制作の目標を設定し、より個性を活かした自由で多彩な表現方法について学びます。絵画や彫刻のみならず、デザインなど、興味のある分野について、深く学ぶことができます。
二年間で身に着けた表現技法や知識をもとに、より専門的な技術も学びながら、自分なりの表現を追求していきましょう。

2　学習の到達目標

（１）美術の幅広い活動を通して造形的な視点についての理解を深め、創造的に表現する能力を深める。
（２）表現の技法や意図を考え、創造的に発想し構想を練ることができる力を身に付けるとともに、価値意識をもって美術に対する見方を深める。
（３）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化に親しむ態度を身に付ける。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	自身が追求した個性について考え、より専門的な視点から理解を深め、表現方法の創意工夫をして個性豊かで創造的に表現している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫をして表現するとともに、他者とのかかわりの中でより豊かな主題を生成し個性豊かな発想で自己の価値観を高めたり、見方感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の幅広い創造活動に取り組み、自分らしい表現を研究している。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	導入『自身の課題を見つけ、表現について学ぼう』	・オリエンテーション 一年間の大まかな制作の目標を設定し、どんな作品を作りたいか、またどのような表現手法について学びたいか、計画を立てる。 ・人物クロッキー、デッサン 絵画の基礎である、デッサンやクロッキーの時間を設け、表現技法を磨く。 毎授業開始時におこなう。(一学期)	a: 一年間の大きな目標をたて、そこへ到達するための技法の研究や、知識を身につける。 b: 学んだ表現技法に対し、自分なりの工夫を取り入れる。また作品のテーマについてもより深く考える。 c: 美術の多様な表現に関心を持ち、これからの学習に意欲を高めている。	作品およびスケッチブック	作品およびスケッチブック	授業観察
	『自分の個性を研究していこう』	自身で計画した作品制作に取り組み、技術だけでなく、テーマについても考えながら作品制作を行う。	a: 新しい表現技法に挑戦するなど自身の表現の幅を広げる。 b: 様々なアーティストの作品に触れ、主題やアイディアについて研究する。 c: 表現の幅を広げるための試行錯誤を積極的に行い、出来上がった作品を客観的に評価しながら次回の制作の目標を立てる。	作品およびスケッチブック	作品およびスケッチブック	制作の様子
2	『表現の幅をひろげよう』	・一学期の制作をふりかえり、新しく学びたい表現方法について考え、二学期の制作の計画を立てる。 ・一学期に挑戦できなかった表現方法に挑戦する。また、表現だけでなくテーマの観点からも研究する。	a:一学期で学んだ技法についてさらに深く学びつつ、多様なアーティストの表現にも目を向け、表現の幅を広げる。 b:他の生徒の作品も鑑賞し意見交換をしながら、アイディアやテーマの幅を広げる。 c:一学期の制作をふまえ、より豊かな表現を目指し、研究を積み重ねる。	作品およびスケッチブック	作品およびスケッチブック	制作の様子

3	『個性を大切に表現を深めよう』	一学期、二学期の作品制作をふまえ、自身の個性的な表現をさらに深めながら制作を行う。	a:一学期と二学期の制作で学んだ技術をより深めながら、独自の表現技法を研究する。 b:美術のみならず社会全体に目を向け、テーマやメッセージ性のある作品制作を行う。 c: 様々なアーティストや、他の生徒達の作品目を向け、観察を行いながら、自身の作品を客観的に見つめ、真摯に制作に取り組む。	作品およびスケッチブック	作品およびスケッチブック	制作の様子

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度